

ソフトウェアシンポジウム2010：横浜

WG5: 「ユーザ企業からの視点」のポジションペーパー

2010-6-16

杉田 義明 (福善(上海)信息技术有限公司 (bv@fzen.jp))

1. 私のポジション

- 1)ソフトウェアの開発者である
- 2)最近ユーザの立場で仕事をする機会が多い
- 3)shellを使ったフロントエンド rdb ツールを応用している
- 4)EUC(エンドユーザコンピューティング)を追求したい
- 5)討論したいこと
 - (1)EUCの環境はどうあるべきか
 - (2)エンドユーザにプログラムを教えたい

2. ユーザニーズは気まぐれ

- 1)s-System と対比してユーザ利用環境は e-system
- 2)現実のモデルとしてのユーザのシステムは常に変化
- 3)したがって常に変わるユーザ要求
 - (1)完璧なユーザニーズはありえない
 - (2)限定的に採用するユーザニーズ
 - (3)結果を見て変わるユーザニーズ

3. ユーザのレベルは高くなってきている

- 1)excel,office,PowerPoint など駆使している
- 2)Webでの経験で見聞を広めている
- 3)一方現実の現場では実現できない最新技術とのギャップ
- 4)比較して貧弱な自社システム

4. EUC 環境を充実させる要素

- 1)パブリックサービスとしてのシステム部門の姿勢
- 2)交通渋滞の経済ロスが組織内でも
- 3)快適環境 (アドホックさ、再利用)
- 4)すぐに結果を得られる実行の容易さ
- 5)成果の蓄積と再利用
- 6)既存システムとの IF

5. Shell は 4GL

- 1) ツールボックスとしての Unix と Windows 環境での Cygwin の応用
- 2) 簡単なルールの設定
- 3) ツールのサンプル
- 4) 応用としての SS2010 のエントリーシステム
- 5) 今後の展開

6. 討論を通じて考えたこと

- 1) エンドユーザ環境で提供する言語はどんなものが可能か
 - (1) BI ツール、GUI サポートツール
 - (2) 不良債権化することへの対応
 - (3) 要員移動に伴う保守への対応
- 2) データ中心アプローチでプログラムは使い捨て(ex:usp)
- 3) 従来型パッケージの応用では保守ライセンスの高騰で対応できず
- 4) EUC 環境を構築してユーザに一任させる
 - (1) シャドウスタッフ、便利屋さんの運営

6. 結論

- 1) ハードウェアも含めて今こそ自立型運営が可能
- 2) shell での応用を推進していきたい。

(以上)